家畜保健衛生所情報

令和8年11月6日

牛飼養農家の皆様へ



２年ぶりに九州地方の牛農場でランピースキン病発生

令和８年 11 月１日、**福岡県**の牛飼養農場において、令和７年１月以来、国内で約２年ぶりとなるランピースキン病の疑似患畜が確認されました。また、同月５日には**鹿児島県**、６日には**長崎県**の牛飼養農場において疑似患畜が確認されております。

本病は、近隣諸国からの媒介昆虫等を介した侵入が考えられます。本年７月以降、韓国において 212 件（10 月 27 日時点）が発生しており、国内の警戒を強めていた中での我が国への再侵入となりました。

本病は感染牛の移動のほか、蚊、サシバエ、ヌカカ等の吸血昆虫（ベクター）により感染が拡大します。牛飼養農家の皆様は、飼養衛生管理を徹底するとともに、平時より害虫対策を講じていただきますよう、よろしくお願いいたします。また、本病は全身の皮膚の結節や発熱、乳量の低下等の症状を呈します。早期発見のために毎日しっかり牛の状態を観察し、本病を疑う症状を確認しましたら速やかに家畜保健衛生所までご連絡ください。

詳しい情報やサシバエ対策は下記ホームページについてもご確認ください。
農林水産省「ランピースキン病に関する情報」
https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/lsd.html

症状・侵入防止対策については次頁もご確認ください！

＊＊
大阪府家畜保健衛生所　〒598-0048　泉佐野市りんくう往来北１－５９
TEL　072-458-1151　　FAX　072-458-1152
＊＊

ランピースキン病

MAFF
農林水産省

Point

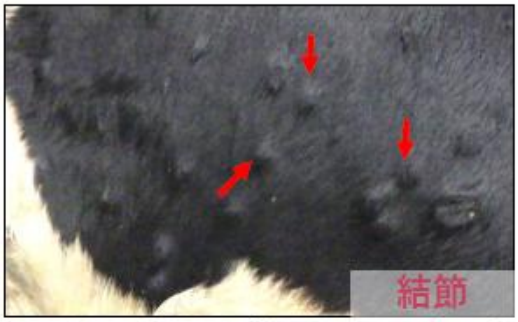
ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。
主に、蚊、ハエ、サシバエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈します。本病は死亡率は高くなく、自然治癒しますが、生産性に影響を及ぼします。

ランピースキン病を疑う症状

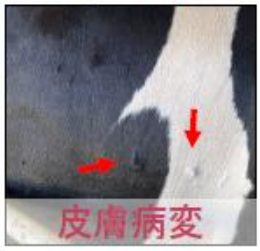
発熱、鼻汁
皮膚の結節
泌乳量の低下
リンパ節の腫大

疑わしい場合は
直ちに連絡！


結節（全身性）


結節


結節


皮膚病変

ランピースキン病の侵入防止対策

01 毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要。
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、出荷、移動時は健康観察を徹底。





02 害虫の駆除

殺虫剤、粘着シート、
ＩＧＲ剤等も活用。



03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。